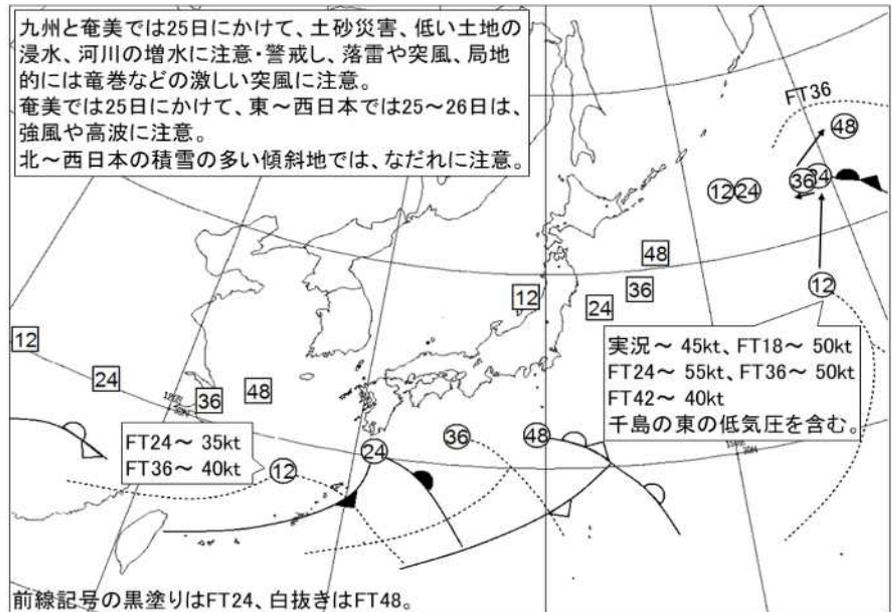


1. 実況上の着目点

- ① 高気圧が、日本海を東南東へ移動している。本州付近は、この高気圧に覆われて、晴れている所が多い。
- ② 前線が、華南から南西諸島付近を通って、日本の南にのびており、東シナ海では強い雨を解析、雷を検知。
- ③ 500hPa 5700m付近のトラフが、華中を東進。衛星水蒸気画像では、対応する暗域が明瞭。
- ④ 前線を伴う低気圧が、日本の東を発達しながら東北東進。また、別の低気圧が三陸沖を北東進。これらの低気圧と①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、北海道地方ではやや強い風を観測。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、25日朝までに三陸沖に中心を移し、その後は26日にかけて日本の東を北東へ移動する。北～西日本では、26日にかけて850hPaの気温が平年並～平年差+5℃程度の状態が続き、雪解けの進む所がある。北～西日本の積雪の多い傾斜地では、引き続きなだれに注意。
- ② 1項③のトラフの接近に伴い、24日夜までに1項②の前線上の東シナ海に低気圧が発生し、東北東へ進む。この低気圧は、25日は発達しながら種子島・屋久島付近を通って日本の南に進み、26日は八丈島の南を通って日本の東に進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。九州と奄美では25日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧の周辺では強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。奄美では25日にかけて、東～西日本では25～26日は、強風や高波に注意。特に、低気圧近傍となる種子島・屋久島を中心に、予想以上に降水が強まる可能性があることに留意。さらに、低気圧の進路や発達程度によっては、伊豆諸島でも影響が大きくなる可能性があるため、今後の資料に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②の日本の南を進む低気圧や前線の予想は、不確実性が大きい。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：九州南部150、九州北部・奄美100mm。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島・東海・近畿・四国・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。